

神武東征の足跡を訪ねる



平成26年4月22日 (火)

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

担当

川井 秀夫 古川 祐司 弓場 厚次

神武東征の足跡

1 葦原中国 (アシハラナカツクニ)

邇邇芸命(ニニギノミコト)天照大神の孫。猿田毘古神の先導により、高千穂峰に天孫降臨。国を治める一步を印す。

日向三代

- ① 日高日子番能邇邇芸命 ② 火遠理命 (山幸彦) ③ 鵜葺草葺不合命 を経て
(ヒコヒコホノニニギ) (ホオリノミコト) (ウガヤフキアヘズ)

2 大和へ 神武東征

広く穏やかな国作りのために東へ行こう。兄 五瀬命ら兄弟と高千穂宮を発つ。

(滞在年)

- ① 宇沙・豊の国 (大分県宇佐市) 足一騰宮
- ② 筑紫 (福岡県遠賀郡) 岡田宮 1年
- ③ 安芸・阿岐の国 (広島県安芸郡) 多祁理宮 7年
- ④ 吉備 (岡山市宮浦) 高島宮 8年
- ⑤ 速吸門 (明石海峡か) 亀の背に乗った国つ神現れる。水先案内を司る。
珍彦 (ウズヒコと自称) 槁根津日子 (サチネズヒコ 神武が与えた名)
- ⑥ 大阪湾から白肩津 (東大阪市 日下町) に上陸。
登美 (奈良市 富雄) の豪族 那賀須泥毘古と交戦。兄 五瀬命 重傷。敗退。
日に向かって戦った事を悔い、南下。紀国 男水門 (泉南市) で五瀬命 死亡。
- ⑦ 熊野に迂回。神の化身、大熊に会う。正気を失い兵士共々病に伏す。
土地の高倉下 (タカクラジ) が現れ、建御雷之男神 (タケミカズキ) から下賜された太刀を献上。忽ち蘇生。
- ⑧ 天つ神から遣わされた八咫鳥の先導で北上。吉野で魚を捕る国つ神、光を放つ尾を持つ井氷鹿 (イヒカ)、など出迎えの神々に会い山中を踏み越え宇陀へ。
- ⑨ 兄宇迦斯 (エウカシ) 弟宇迦斯 (オトウカシ) と言う強い勢力の兄弟に遭遇。
鎗矢で八咫鳥を射ち追い返し敵対。更に罟を仕掛け待ち伏せるが、オトウカシの密告により、エウカシは自ら仕掛けた罟に落命する。
死体を切り刻み、この地を「血原」と呼ぶ。
- ⑩ 西へ向かう。忍坂 (桜井市) の岩穴から尾の生えた土雲 (土着民の蔑称) の八十建 (ヤソタケル) が現れたが一計を策し討滅。
更に、怨敵 登美毘古を討ち、兄師木 (エシキ) ・弟師木 (磯城郡) の勢力を服従させ、畝火の白檮原宮で即位。天下を治める。

神武天皇は実在したのか

神武天皇と言う呼称は、奈良時代後期に諡号として付けられたもので、『記紀』の記述において、下記の諸点からも疑義をもつ学者が多い。

例えば、瀬戸内の東征ルートの話が簡単すぎる。日向から大和へ、政治勢力の移動と言う前提にしない考え方も可能ではなかったか、と。

また、神武天皇の名前をカムヤマトイワレヒコの他に、ワケミケヌノミコト（記）

（神倭伊波礼毘古命） （若御毛沼命）

トヨミケヌノミコト（記）、サヌノミコト（紀）ヒコホホデノミコト（紀）の別名を持ち

（豊御毛沼命） （狭野尊） （彦火火出見尊）

別々の霊格であったものを統合して一人の人物にしたのではと推測される。

『紀』には、神武天皇陵を畝傍山東北陵と記しています。「橿原市史」には1863年 廃寺跡にあてたとあります。

ところが天武紀に、壬申の乱において高市の県主が神がかりとなり、大海人皇子の軍が神武天皇陵に馬や兵器を奉ったとあります。と言う事は七世紀後半に御陵がこの地にあった事になります。御所にある柏原の神武天皇社を指しているのでしょうか。

平安期の延喜式には兆域(墓のある区域)の記載まであり、否定できません。

今の神武陵は幕末の勤王思想が浮上し作られたのでしょうか。

ロマンに水を掛ける様な話になりました。神武伝承を歴史的に理解することは容易ではありません。人々が伝承的に語った物語を現代人がそれぞれ考えをめぐらすのが良いのではないのでしょうか。

伊波礼毘古命の後 伊須気余理比売（イスケヨリヒメ）

畝火で即位したイワレヒコは、既に日向で娶った阿比良比売と言う妻がありました。天皇にふさわしい皇后をと、大久米命が大物主命の娘を神の御子として選ぶ。

狭井川の野原で遊ぶ娘を見初め、娘(イスケヨリヒメ)の家で一夜を過ごし結ばれる。

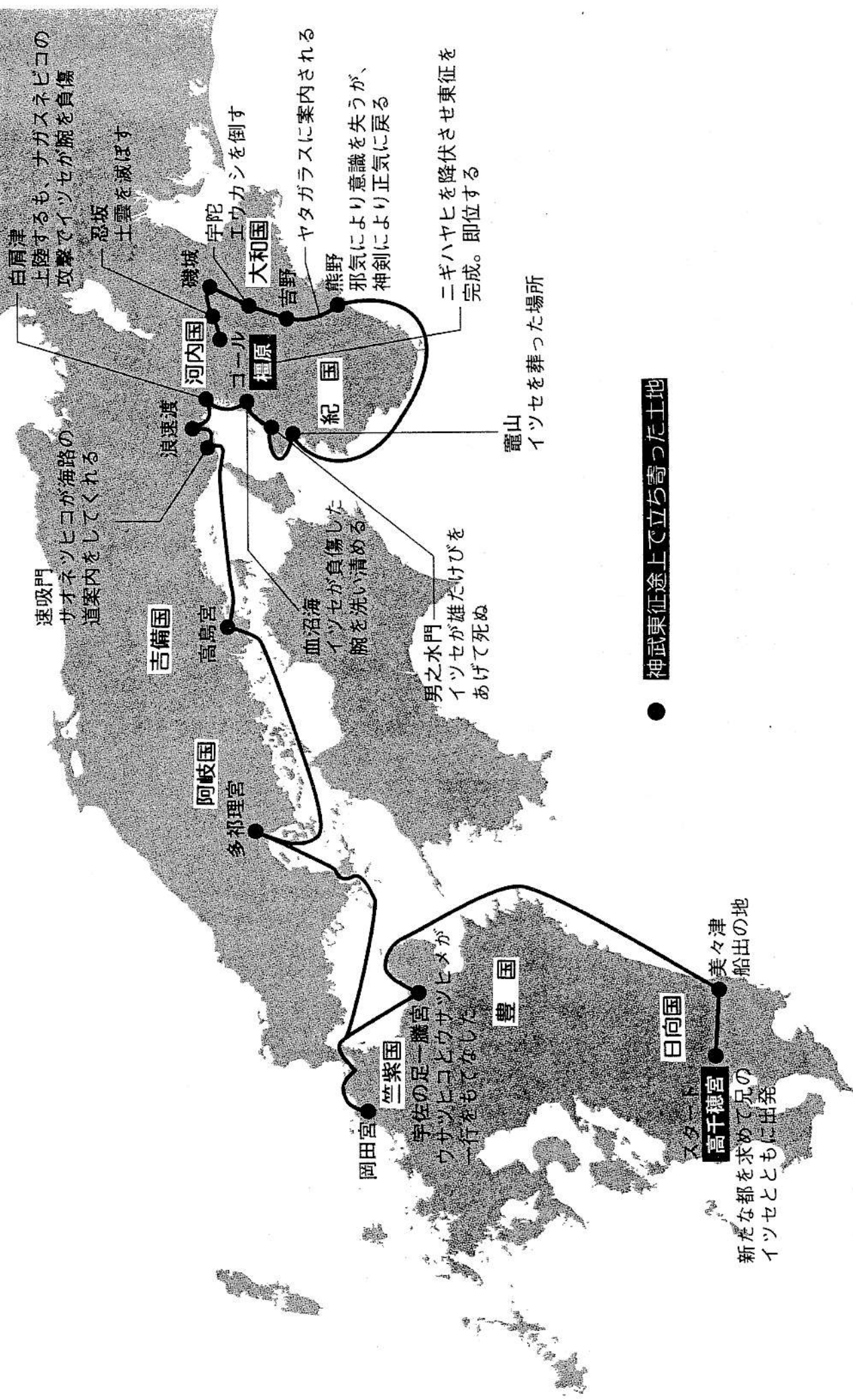
葦原のしげしき小屋に菅畳 いや清敷きて我が二人寝し

イワレヒコが137才で崩御した後、先妻の子 タギシシミがイスケヨリヒメを娶り、三人の異母弟を殺そうと図る。それを知った母イスケヨリヒメは息子たちに陰謀を知らせるが兄のカムヤイは震えて手が出ず、弟のカムヌナカハミミが兄の武器を持ち殺す。

こうしてカムヌナカハミミは第二代 綏靖天皇となり葛城の高岡の宮で天下を治める。この後、皇記は欠史八代として歴史の記録は系譜だけとなっている。

神倭伊波礼毘古命

神武東征 日頃から大和へ



白肩津
上陸するも、ナガスネビコの
攻撃でイツセが腕を負傷

忍坂
土雲を滅ぼす

浪速渡

磯城
宇陀
エウカシを倒す

大和国
吉野
熊野
ヤタガラスに案内される

邪気により意識を失うが、
神剣により正気に戻る

ニギハヤヒを降伏させ東征を
完成。即位する

龍山
イツセを葬った場所

速吸門
サオネツヒコが海路の
道案内をしてくれる

吉備国
高島宮

血沼海
イツセが負傷した
腕を洗い清める

男之水門
イツセが雄たけびを
あげて死ぬ

阿岐国
多祁理宮

竺紫国
岡田宮
宇佐の足一躰宮
ウサツヒコとウサツヒメが
一行をもてなした

豊国

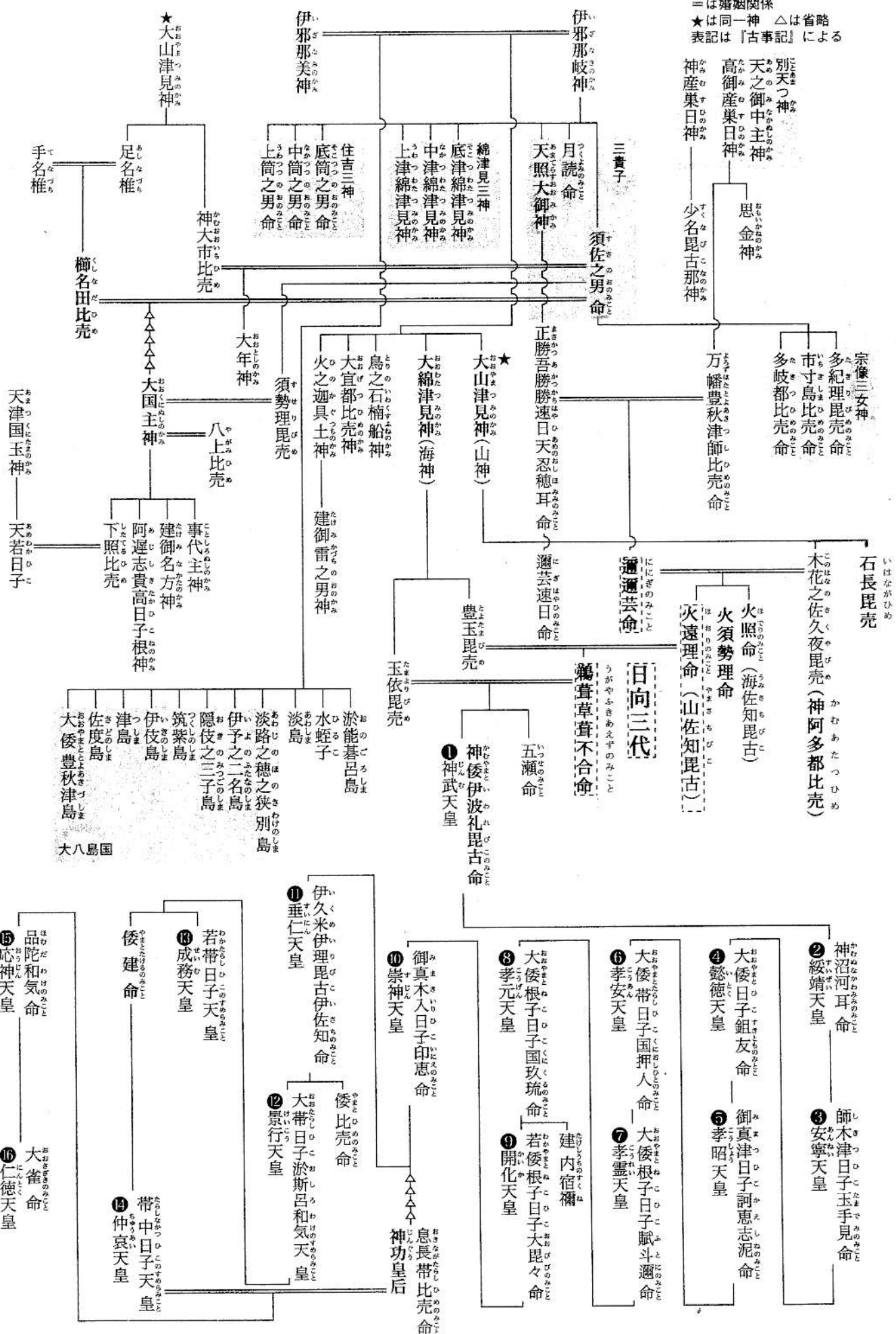
日向国
高千穂宮

美々津
船出の地
新たな都を求めて兄の
イツセとともに出発

● 神武東征途上で立ち寄った土地

主な神々と天皇の系図

△は省略
★は同一神
△は省略
表記は『古事記』による



- 15 応神天皇
- 16 仁徳天皇

- 13 成務天皇
- 14 仲哀天皇

- 11 垂仁天皇
- 12 景行天皇

- 10 崇神天皇
- 神功皇后

- 8 孝元天皇
- 9 開化天皇

- 6 孝安天皇
- 7 孝靈天皇

- 4 懿徳天皇
- 5 孝昭天皇

- 2 綏靖天皇
- 3 安寧天皇

歴史文化クラブ 4月例会「神武東征の史跡を巡る」 バス運行コース予定

下記のコースと時間を予定しています。
別に地図を添付しました。よろしくお願いいたします。

1、4月22日（火）集合時間 8：30

2、集合場所：中小企業会館前（近鉄奈良駅東）にてマイクロバス待機

3、行程

出発（8：30）⇒西名阪：針IC経由⇒R369にて宇陀市内へ

⇒札の辻にてバス下車

⇒徒歩にて伊勢本街道を約30分⇒墨坂神社着（拝観）⇒（バス乗車）

「図①」

⇒八咫鳥神社拝観

「P②」

⇒阿紀神社（かぎろひの丘で昼食）⇒（バス乗車）

「P③」

⇒宇太水分神社

「P④」

⇒桜実神社・八房杉拝観

「P⑤」

⇒宇賀神社（血原橋）

「P⑥」

⇒青蓮寺（拝観）

「P⑦」

⇒近鉄奈良駅着（16：30の予定）

4、連絡先・担当

歴史文化クラブ事務局

古川祐司（Email：rekibun@naranature.com）

（Tel/ Fax：0742-44-8621）

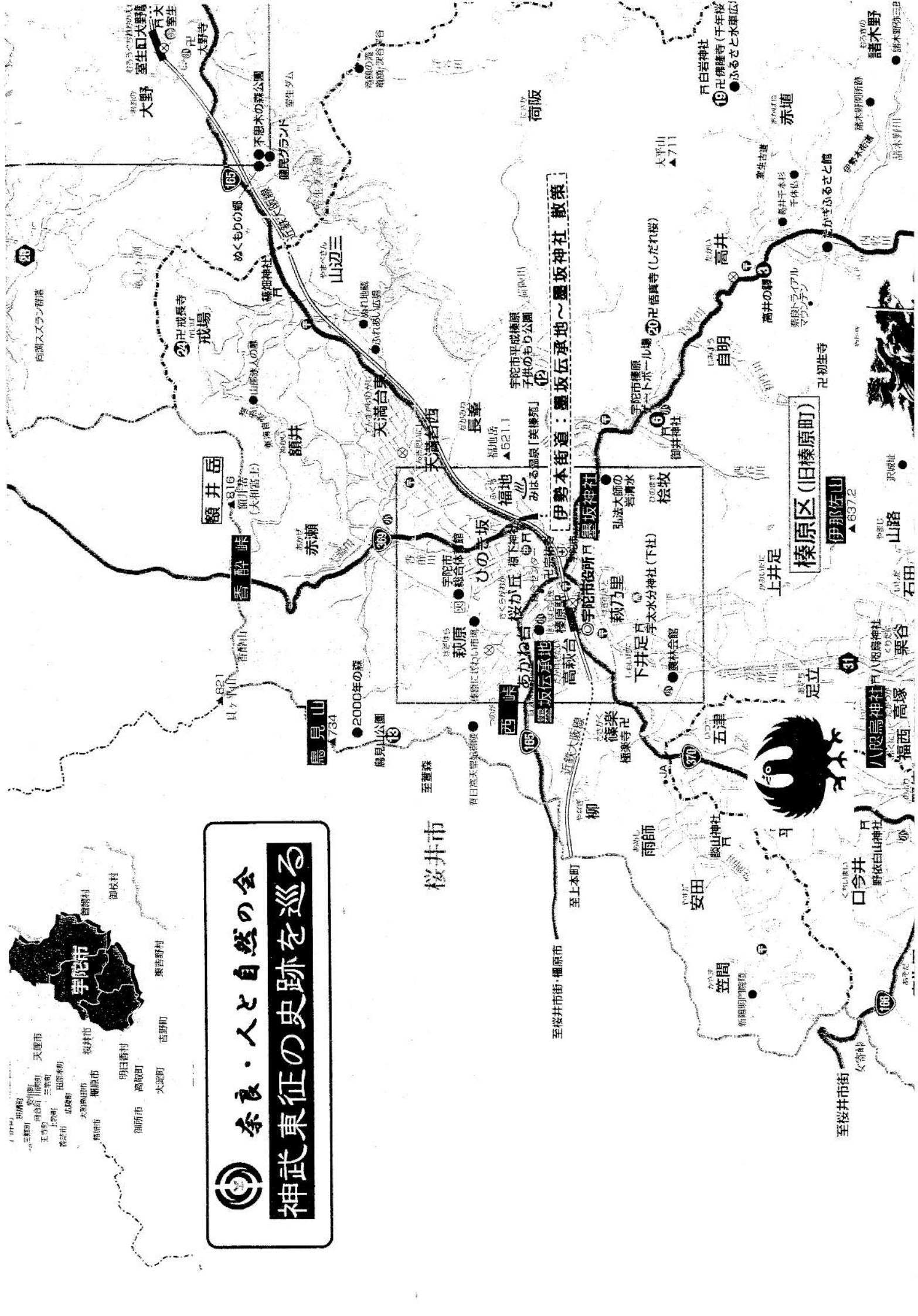
以上

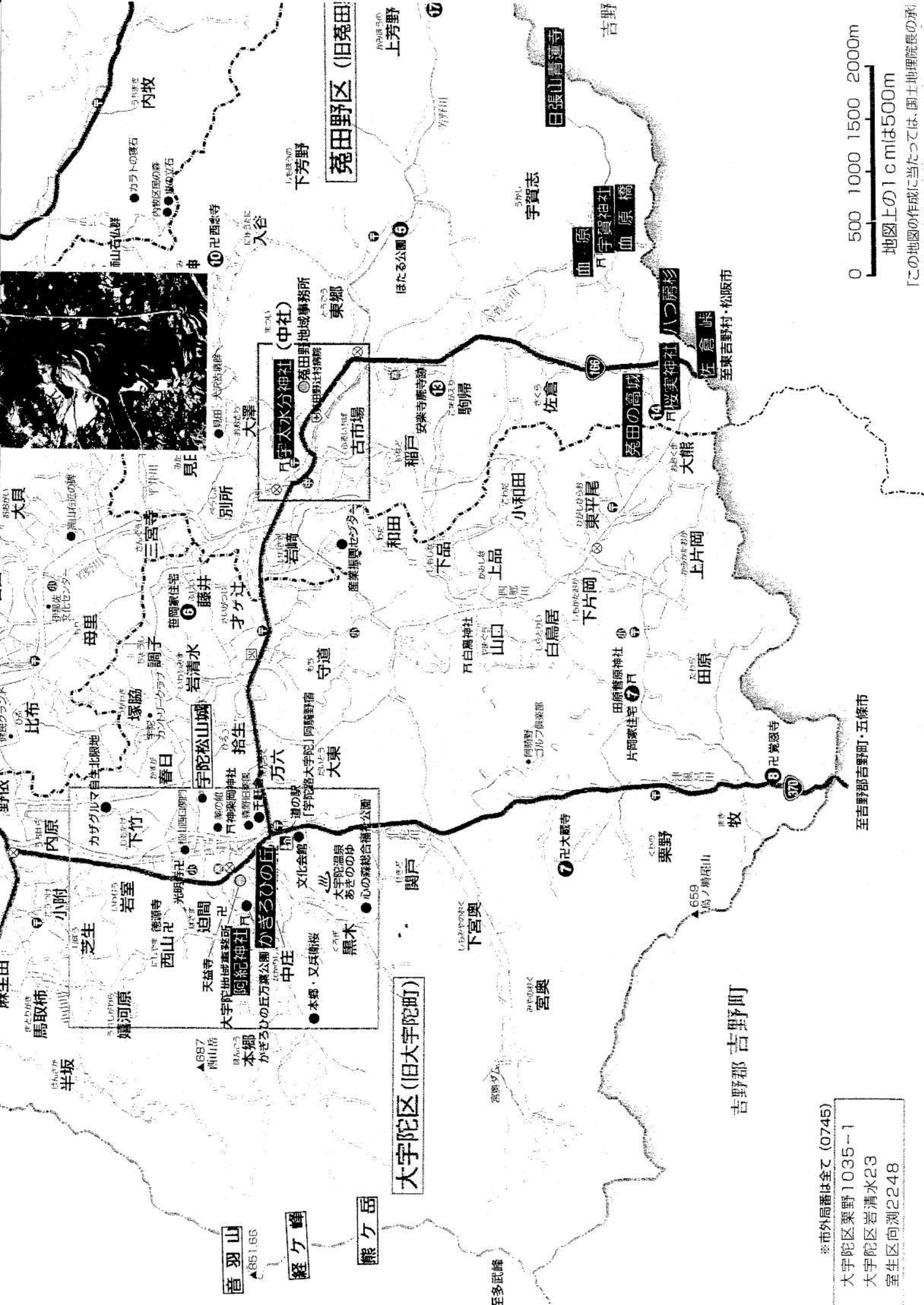
歴文4月研修会バス運行図





奈良・人と自然の会
神武東征の史跡を巡る





0 500 1000 1500 2000m
 地図上の1cmは500m

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承

※市外局番は全て (0745)
 大宇陀区栗野1035--1
 大宇陀区岩清水23
 室生区向測2248

別図 ①

学校給食センター看板
坂井環境

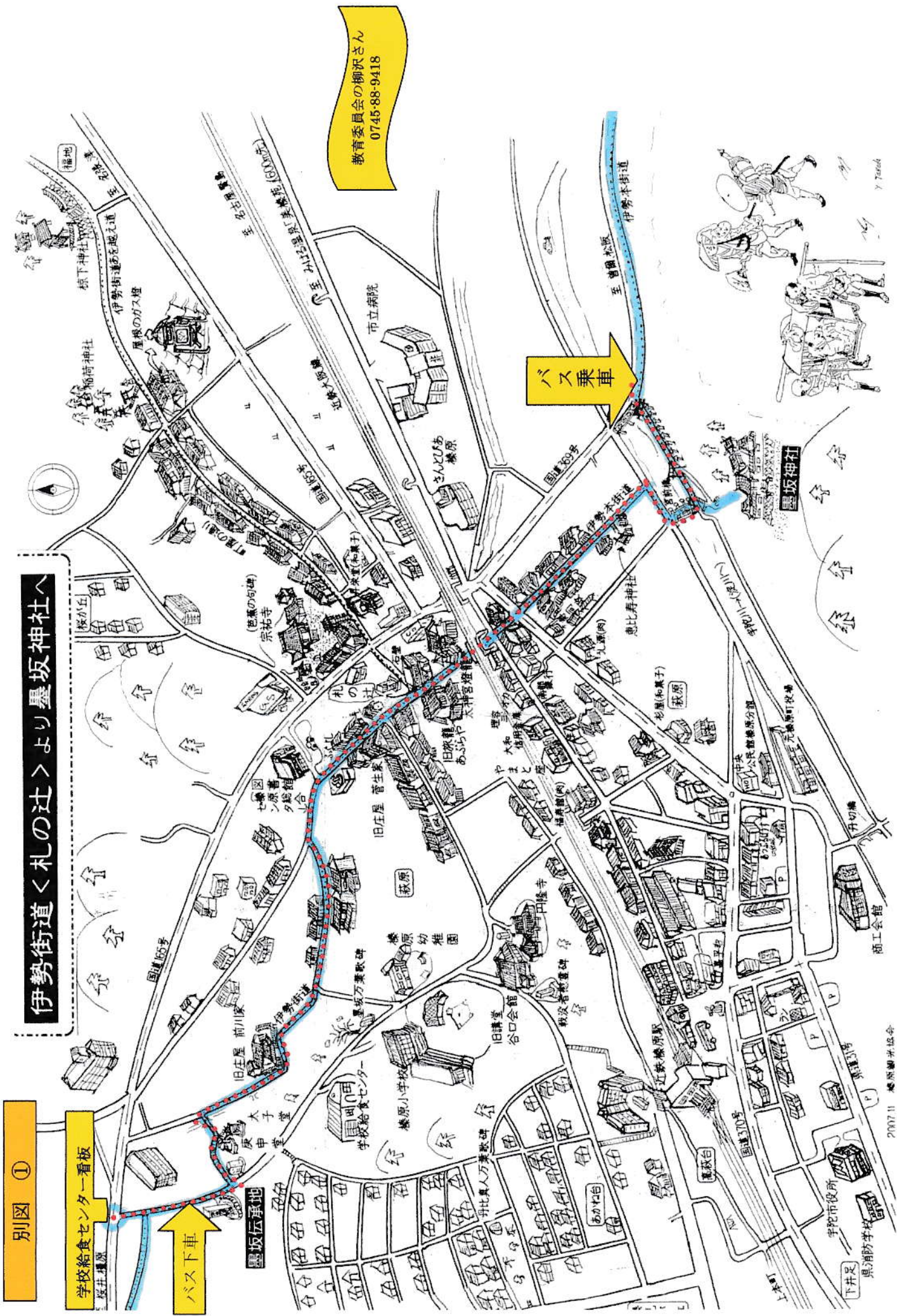
バス下車

墨坂伝承地

伊勢街道<札の辻>より墨坂神社へ

教育委員会の柳沢さん
0745-88-9418

バス乗車



Y. Tanihara